

## 審議会からの総括と提言案

### 1 取組実績全体についての総括

各事業の評価としては、A評価7事業(9.0%)、B評価(85.9%)と、約95%の事業が順調に事業を遂行できていると考えられます。これまでの取り組みで一定の実績が積み重ねられてきていることもあり、多くの施策について事業の進行や前進が見られ、一定のレベルにあると考えます。

良い部分は引き続き維持し、時代の変化に柔軟に対応し、事業実施方法を試行錯誤し改善しつつ、今後も取り組んでいく必要があります。

一方、全体として事業は着実に進められているものの、いくつかの事業において課題が見受けられます。課題については、改善の余地があるとも捉えることもできますので、次年度以降、創意工夫や検証を重ねて改善し、今後も積極的な取り組みを期待します。

### 2 次年度への提言・アドバイス

#### (1) 効果的な周知と啓発の戦略

##### ① 周知機会の最大化

あらゆる機会を活用し、興味・関心がない人や直接関連性がない場面においても周知できる可能性を探ること。

##### ② 啓発活動の多様な視点

啓発においては、性差のみならず、世代間や立場の違いにも注目すること。例えば若年層への啓発には、若年層自身だけでなく、指導的な立場にある人々への啓発も行う必要がある。

#### (2) 事業評価と報告内容の精度向上

##### ① 事業の可視化

定量的な事業の評価は難しい分野であるが、市民に丁寧に示せるよう努力を継続すること。

##### ② 取組実績報告の質と精度の向上

取組実績報告に際して、回答の質と精度を高めるためのガイドラインを作成すること。創意工夫や配慮が行われた回答を他の事業でも応用し、また、他部課で参考にできるようにし、その効果を高めること。

### (3) 理解促進

#### ① 視覚的資料の活用

説明資料の作成においては、図やグラフを活用し、理解しやすい形にすることを心がけること。

#### ② 分かりやすい言葉の選択

英文字やカタカナの用語も増えていることを認識し、なるべく「市民に分かりやすい表現」を意識すること。また、新しい用語や概念については、初心者でも理解しやすい解説を加えて、資料のわかりやすさを向上させると共に、その用語等の周知に努めること。

令和7年1月

男女共同参画及び多様な性の尊重に関する審議会